

★ ☆
星の文藝欄
★ ☆

—花山の生活より—

會員 平田野 龜

てんどう ぼし みくら
天堂の星の御座は嚴かに

いかづちぐも
雷雲のとゞろける踏む

球蓋にどよめく山の夜嵐に

かそけくふるふ遠き宇宙よ

涙せる君が暈に通ひたる

南の星の早く沈む夜

うたかたの命思はず衰へし

弱き焰の星を傷める

近江路に黄道光の斜なり

流るゝ星を描きつ明かしぬ

夜もすがら守りし視野に沈みゆく

星懷しみしばし動かす

たゞづめる朝の露臺にほのかなる

おちころ
霧海深き遠江のかね

計算に倦みて物憂く天球儀

指にて壓せばくるくるとまふ

薄曇る月の今宵はとく寝んと

枕につけば水鶏きてなく

爆笑の夜の集ひの窓邊をば

稻妻しげく強雨すぎゆく

星座小唄 “妾やシリウス”

—星 座 小 唄—

1. ツクテハナ
櫻 花咲く彌生の空に
天津乙女の ツキスガク
艶 姿
白い光の スピカを守る
金の牧夫座 アークトゥル
2. 盡きぬロマンス 銀河の邊り
人もうらやむ セタの
年に一度の 楽しい語り
ヴェガと わし座のアルタイル。

3. スキートハートの 頭のカシヲ
S字
君を さそりの アンタレス
燃ゆる焰に 焦れた戀の
射手が怨めし キュウビツド。
4. 冬も暖か 炬燵の炭火
赤い牛の眼 アルデバラン
君のおそばに オリオンならば
妾やシリウス 幸福を。

シリウスの光輝は私にとりまして幸福です。希望の光です。

1934年12月18日

(少しく直しました——山本)

群馬縣利根郡片品村 長谷川 信次